

高速鉄道 3 号線の計画等について

1. 全体計画	1
2. 開業区間の現状	1
3. 延伸事業の進捗状況等	2
(1) 全体スケジュール		
(2) 工事		
(3) 車両製作		
(4) 情報発信		
(5) 料金制度		
4. 今後の取り組み	9

【参考】

1. 工事の進捗状況
2. 櫛田神社前駅イメージ①
3. 櫛田神社前駅イメージ②
4. 博多駅イメージ①
5. 博多駅イメージ②
6. 博多駅乗換えイメージパース
7. 料金制度にかかる直近の委員会報告内容（令和3年2月生活環境委員会資料再掲）①
8. 料金制度にかかる直近の委員会報告内容（令和3年2月生活環境委員会資料再掲）②
9. 七隈線各駅の輸送人員の推移（1日平均）

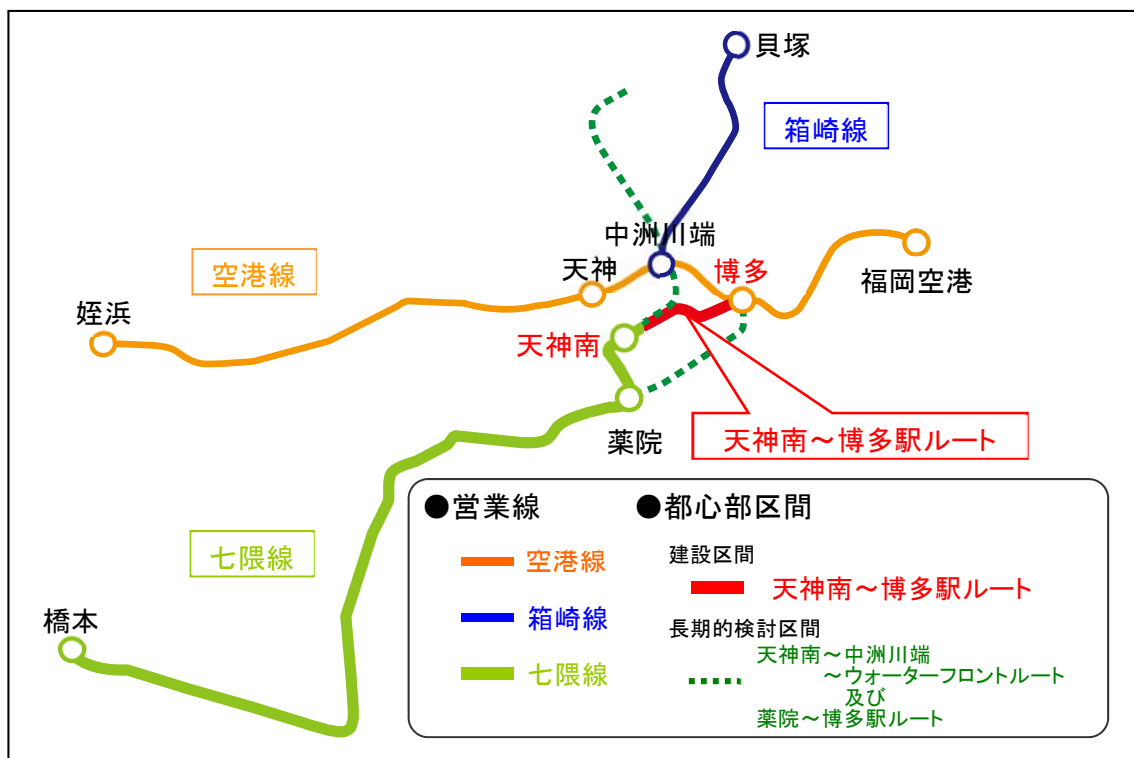
1. 全体計画

高速鉄道3号線(七隈線)は、西南部地域の慢性的な交通渋滞を緩和し、効率的で利便性の高い公共交通体系の確立を図るとともに、均衡あるまちづくりを推進するために計画された。

平成17年2月3日に橋本～天神南間を開業し、残る都心部区間について、交通対策特別委員会を中心に総合的な調査・検討を行い、天神南～博多駅ルートの実業化に向け取り組みを進めることとなった。

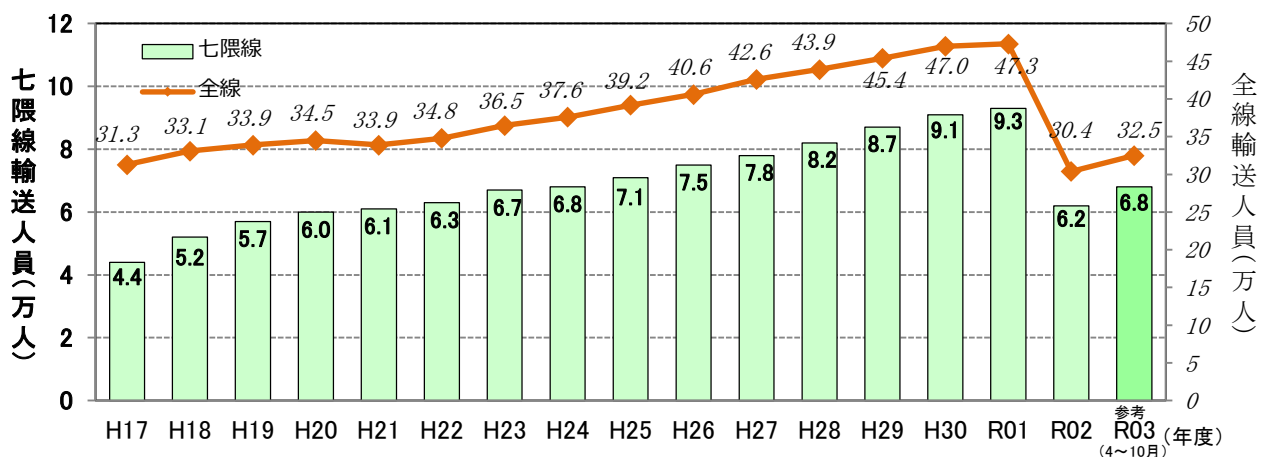
なお、天神南～中洲川端～ウォーターフロント及び薬院～博多駅の2ルートについては、将来的なまちづくりの進展などを見据えて、長期的視点に立った検討を行うこととなった。

▼地下鉄路線図



2. 開業区間の現状

▼七隈線及び全線の利用状況(1日あたりの輸送人員)



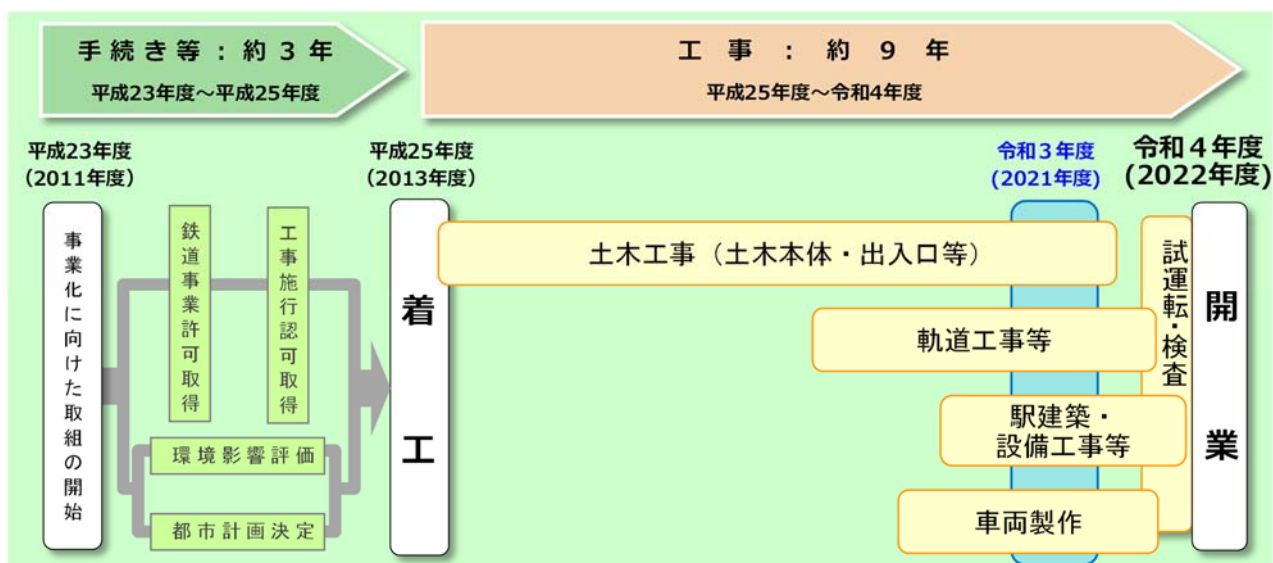
3. 延伸事業の進捗状況等

(1) 全体スケジュール

七隈線延伸事業については、平成23年度(2011年度)から事業化へ向けた取り組みを開始し、鉄道事業許可や工事施行認可の取得後、平成25年度(2013年度)に土木本体工事に着手し、事業を進めてきた。

現在は、令和5年3月の開業に向け、安全を最優先に土木工事、軌道工事、駅建築・設備工事及び車両製作等を推進している。また、令和3年7月の新駅名の決定や、令和4年1月の駅シンボルマークの決定など、各種情報の発信も行った。

◆全体スケジュール



(参考) 事業概要

- 延伸区間 天神南～博多
- 建設キロ 約1.4 km (営業キロ約1.6 km)
- 事業費 約587億円
- 利用人数 延伸区間で約8.2万人/日 (需要定着後)
うち、新規利用者数※：約2.3万人/日
※マイカーなどから乗り換えて新たに地下鉄を利用する人数
- 開業予定 令和5年3月 (令和4年1月公表)

◆駅シンボルマーク



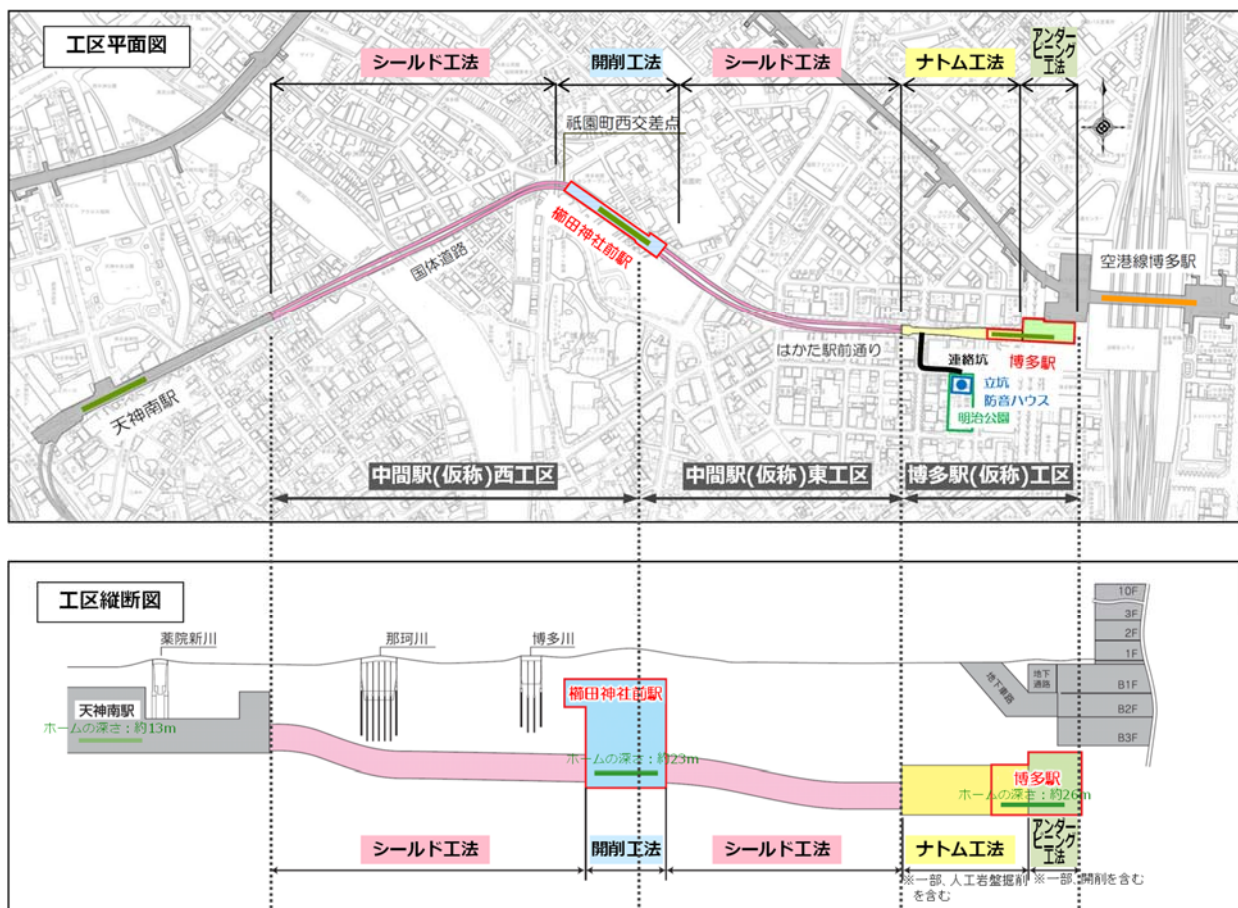
※空港線博多駅と同一

(2) 工事

①土木工事

中間駅(仮称)西工区及び東工区が令和3年7月に竣工した。また、博多駅(仮称)工区では、ナトム区間のトンネル構築やアンダーピニング区間の駅舎部構築が完了し、現在、JR博多シティ等の既存施設への接続工事などを実施している。

▼工区概要図



②軌道工事等

延伸全区間の軌道敷設が完了し、現在は、トンネル内に手すり等の安全設備及び、距離やトンネルの勾配を示す線路諸標などの付帯施設の設置を進めている。

③駅建築・設備工事等

榊田神社前駅及び博多駅において、地上出入口上屋や間仕切り壁の建築工事、設備配管の敷設工事等を実施している。

(3) 車両製作

新車両の名称は「3000A系」に決定した。Aは「Advance」の頭文字を意味している。

エクステリアについては、七隈線が延伸により「空の玄関口」福岡空港へとつながるイメージ、また、希望の未来を示す、広く澄んだ青空をイメージした「スカイブルー」を車両側面に採用した。

インテリアについては、「感染症対策」や「ユニバーサルデザイン」を進化させた。

【感染症対策】

- ・手すりや座席に抗菌・抗ウイルス素材を使用
- ・抗菌・抗ウイルス剤をコーティング
- ・出入口付近のスペース拡大（両先頭車のみ）

【ユニバーサルデザイン】

- ・立ち座りしやすいシートの導入（両先頭車以外）
- ・優先スペースの増設／2段手すりの設置
- ・吊手の増設／形状の変更
- ・ドア開閉動作ランプの設置
- ・液晶式車内案内表示器の設置

[エクステリアイメージ]



[インテリアイメージ]



延伸事業に伴う2編成は、橋本車両基地への搬入が完了しており、現在、各種試験を実施中である。なお、残りの2編成は令和4年度に搬入予定である。

[陸揚げ作業状況]



[陸送状況]



(4) 情報発信

年1回発行する概要パンフレットにおいて、七隈線延伸事業の概要や工事進捗状況等を広報するとともに、空港線博多駅及び七隈線天神南駅の情報発信コーナーにおいて、壁面装飾、液晶ディスプレイ等により、駅の利用者をはじめとした多くの方に事業の効果や進捗状況などを伝えている。

加えて、七隈線全駅・空港線主要駅の電照広告を活用し、延伸開業の気運醸成を図っている。

また、七隈線延伸事業を広く、わかりやすく伝えるため、交通局ホームページ内に延伸事業のページを設けて様々な情報を提供しているほか、工事の進捗状況や交通規制状況等の情報についても、概ね四半期に1回発行する工事だより等を通じて、積極的に情報の発信を行っている。

今後も、これらのツールなどを活用しながら、積極的に七隈線延伸事業の効果や進捗状況などを発信していく。

[博多駅 情報発信コーナー]



[電照広告 デザイン]



(5) 料金制度

① 延伸後の料金制度に係る基本的な考え方

- ア 七隈線の延伸（天神南－博多）による空港線への接続に伴い、従来、七隈線と空港線の結節点がなかったことから特例として実施してきた「天神駅－天神南駅間の改札外乗継制度」は廃止する。
- イ 空港線と七隈線の博多駅での乗り継ぎの場合も、空港線と箱崎線との中洲川端駅での乗り継ぎと同様に、通算の乗車距離に応じた料金とする。この場合において、姪浜・橋本間が 23.4 km となり、現行条例（3 km までを 1 区、それを超える区間は 4 km ごとに 1 区を加算）では、23 km を超える区間は 7 区となるため、新たな料金区を設定するところであるが、利用状況などを総合的に勘案し、7 区は新設せず、現行の 6 区を延長することで対応する。
- ウ ア・イに伴って、料金負担が増加する区間については、経過措置として、負担緩和策を実施する。
- ・ 普通料金について、増加する料金負担の 1 / 2 の「はやかけんポイント」を付与
 - ・ 定期料金について、現行と同一乗車が可能、かつ同一料金とした特別定期を販売
 - ・ 経過措置は、原則 1 年間（通学定期については特段の配慮を行い、3 年間に延長）

② 乗車料金条例の改正

ア 現行の料金制度

(単位：km、円)

営業キロ程	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
区数	1 区			2 区				3 区				4 区				5 区				← 6 区
普通料金	210			260				300				340				360				← 380
通勤定期料金	8,170			10,220				11,850				13,080				13,900				← 14,710
通学定期料金	5,040			6,290				7,300				8,050				8,550				← 9,060

イ 延伸後の料金制度

(単位：km、円)

営業キロ程	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
区数	1 区			2 区				3 区				4 区				5 区				6 区				
普通料金	210			260				300				340				360				380				
通勤定期料金	8,170			10,220				11,850				13,080				13,900				14,710				
通学定期料金	5,040			6,290				7,300				8,050				8,550				9,060				

ウ 条例施行日

規則で定める日

③新料金制度移行に伴う負担緩和策

上記料金制度の構築に伴い、乗車距離が増加し、料金負担が増加する一部の利用者に対し、以下のとおり、経過措置として、負担緩和策を実施する。

ア 普通料金に係る負担緩和策

博多駅経由で乗車する利用者のうち、「はやかけん」利用を対象として、

- ・増加する料金負担の1/2のポイントを付与する。
- ・経過措置期間は、1年間とする。

イ 定期料金に係る負担緩和策

定期料金が現行よりも増加する区間の定期乗車（通勤・通学）を対象として、

- ・天神駅と天神南駅を跨る2つの区間の定期を1枚に集約した特別定期を発売する。
- ・現行料金から増加する負担額と同額の割引額を設定することで、現行料金と同一とする。
- ・経過措置期間は、通勤定期を1年間、通学定期を3年間とする。

ウ 具体的な制度

券種		負担増	緩和策	(参考) 利用者数 (R 元)
普通料金		20 円 ~ 80 円	10 ~ 40pt 付与	2,825 人/日 [0.6%]
定期料金	通勤	810 円 ~ 2,860 円	特別定期	4,017 人/日 [0.8%]
	通学	500 円 ~ 1,760 円		1,738 人/日 [0.4%]

※[]内は地下鉄全利用者に占める割合。

※利用者数には、地下鉄終日全線乗り放題1日乗車券などの企画乗車券や地下鉄全線乗り放題定期券の「ちかパス」利用者数を含むため、実際に負担増となる利用者はさらに少ないものと想定される。

④西鉄貝塚線との乗継割引への影響等

貝塚駅からの料金区が変更となる一部区間においては、地下鉄線内の料金負担増に加えて、乗継割引適用区間の変更に伴う割引額の減少も生じるが、経過措置として、③と同様の負担緩和策を実施する。

券種	乗継割引適用区間	対象駅	負担増	緩和策	(参考) 利用者数 (R 元)
普通料金	60 円割引 ↓ 20 円割引	渡辺通 ~ 貝塚線 薬院 1・2 区	40 円	20 pt 付与	20 人/日
	20 円割引 ↓ 非適用	六本松 ~ 貝塚線 別府 1・2・3 区 茶山	20 円	10 pt 付与	21 人/日
通勤定期 料金	10%割引 ↓ 5%割引	渡辺通 ~ 貝塚線 薬院 1・2 区	730 円 ~ 850 円	特別定期	40 人/日
	5%割引 ↓ 非適用	六本松 ~ 貝塚線 別府 1・2・3 区 茶山	890 円 ~ 1,080 円		37 人/日

※通学定期については、乗継割引制度がないため、影響はない。

⑤JR 筑肥線との乗継割引への影響等

JR 筑肥線との乗継割引制度は、地下鉄2区(姪浜駅~赤坂駅)以内を対象としているため、影響はない。

【参考1】七隈線延伸に伴い料金が下がる区間

七隈線の渡辺通駅以西から空港線の博多駅や福岡空港といった博多駅以東区間の乗車の一部については、七隈線が博多駅で結節し、乗継駅として設定されることで、乗車距離が短縮し、乗車料金が減少する。

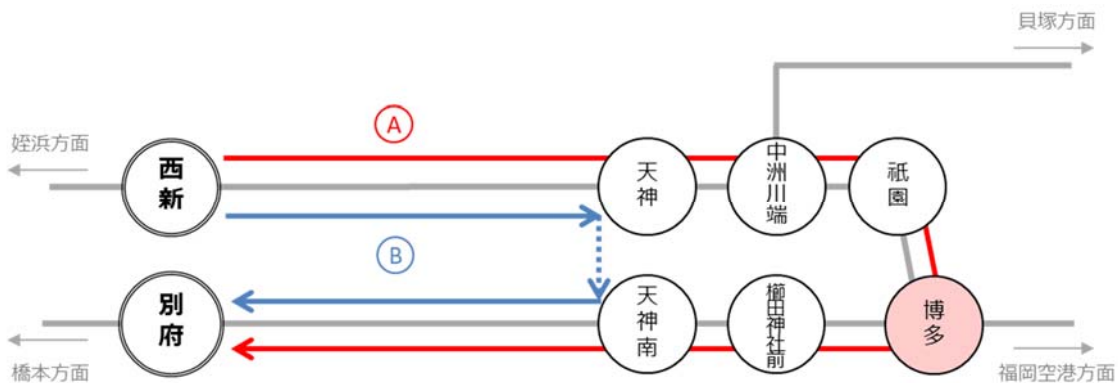
券種		減少額	(参考) 利用者数 (R 元)
普通料金		20 円～50 円	890 人／日 [0.2%]
定期料金	通勤	820 円～2,050 円	855 人／日 [0.2%]
	通学	500 円～1,250 円	202 人／日 [0.04%]

※[]内は地下鉄全利用者に占める割合。

※七隈線延伸に伴い、乗車距離および乗車時間が短縮することに加え、乗車料金も減少することから、利用者数はさらに増加することが見込まれる。

【参考2】負担緩和策のイメージ（経路による乗車料金の適用例）

▼西新駅～別府駅まで利用の場合



① 定期料金

→ : ルートA (通常の定期券)

13,080 円 < 4 区 >

→ : ルートB (天神駅・天神南駅経由定期 (仮称))

11,850 円 < 3 区相当 >

※現行定期料金と同額

※天神駅～天神南駅間乗降時は区間外乗車のため、別途料金発生

② 普通料金

→ : ルートA

340 円 < 4 区 >
(ポイント計算)

西新駅 → 別府駅

延伸区間開業後 : 12.5 km (4 区) 340 円 < 乗車経路 : 西新駅～博多駅～別府駅 >

延伸区間開業前 : 8.4 km (3 区) 300 円 < 乗車経路 : 西新駅～天神駅～天神南駅～別府駅 >

差引 : 40 円 ← 現行の 3 区との差額の 2 分の 1 を付与

→ : ルートB

520 円 < 乗車経路 : 西新駅～天神駅 (2 区 260 円) + 天神南駅～別府駅 (2 区 260 円) >

4. 今後の取り組み

(1) 安全を最優先とした着実な工事等の推進

土木工事や軌道工事、駅建築・設備工事等について、安全対策に万全を期しながら進めていくとともに、延伸区間における試運転の実施や各種検査等、一日も早い開業に向け、着実に取り組んでいく。

(2) 駅デザイン等の取り組み

駅デザイン等については、地域の個性を駅空間に反映させ個性化を図るとともに、ユニバーサルデザインにも配慮された、使いやすい駅づくりに取り組んでいる。

また、地域の魅力賑わいづくりに資するよう、地上で行われているお祭りやイベントの雰囲気や駅の中から感じられるような駅空間づくりの検討を進めていく。

(3) 開業に向けた気運醸成の取り組み

令和5年3月の開業に向け、全市的なイベントなどの機会も捉えつつ、市民に親しみをもっていただけるような広報やイベント等の企画について検討するとともに、市政だよりやホームページなどの既存媒体に加え、SNSを活用した情報発信等に引き続き取り組んでいく。